

極端化する気象現象を踏まえた安全・安心な街づくりに関する取り組み

【浪江町】×【(株)ウェザーニューズ】

1 解決したい地域課題

- ・災害時に町で何が起きているか状況がわからない
- ・災害時に住民間、町役場職員で状況を共有しあうツールがあると便利だが、災害時の利用だけではいざとなると操作ができないし、その存在すら忘れてしまう。
- ・**平時のうちから当該ツールの操作になれ、普段使いでも地域住民の役に立ち、いざ災害のシーンでも活用可能なツールがない**

2 実証事業の到達目標

防災時の利用のみならず、**平時にも情報共有する仕組みを構築**することにより

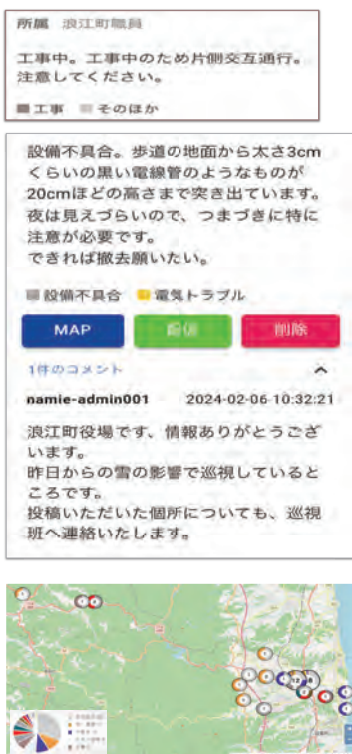
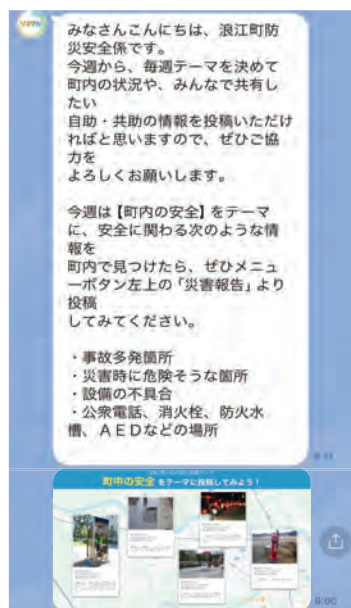
- ・住民：平時でも生活に役立つ、いざという時も町の災害状況がわかり、どうすれば良いか自らで判断できる
- ・自治体：町の住民からの投稿により、平時の街の活性化、つながりを強化でき、災害時には町の様子を認識し、早急に対応する
- ・企業：**LINE**を活用した住民参加型の防災フェーズフリーな街づくり、防災課題の解決が提供可能かを確認する

3 実施内容

【取組①：平時の情報共有】

平時における情報共有コミュニティの活発化を図る

- ・住民説明会を開催し、操作練習
- ・投稿のテーマを設け、平時から積極的な投稿を促す試み
(テーマ例)・事故多発箇所
・設備の不具合
・公衆電話、消火栓、消火水槽、AIDの場所など
・猿出没情報



【取組②：災害時(防災訓練)の情報共有】

災害時を想定し、防災訓練を実施

- <住民>
 - ・災害時における投稿操作円滑度の検証
 - ・投稿内容の有用性検証
- <自治体>
 - ・災害情報種集内容の有益性検証
 - ・防災活動における有益性検証



災害時の初動対応には活用できそう！

どの課が、誰に指示を出すか等運用面での整理が必要

災害発生2日目以降にどう活用するか検討が必要

4 まとめ（今後の展望）

<自治体>

- ・社会基盤の老朽化等により起こりうる危険事象は異変の早期発見と対応が重要であり、このシステムは地域の生活者が異変に気付いた際に情報を共有できる環境となりうる。平時利用を促すためには、日頃から住民のメリットとなるような情報が投稿されていることが望ましく、生涯学習や地域経済の情報を持つ関係機関との連携を模索したい

<企業>

- ・平時のコミュニティ(移住者や高齢者の繋がり、鳥獣害情報(猿出没))での活用により一定の効果を確認でき、災害時にもスムーズな投稿に結びついたことが確認できた。平常時の活用用途についてさらなる検討を加えながら他自治体への横展開を模索したい